

那珂市議会 議会運営委員会記録

開催日時 平成30年11月13日（火）午後1時

開催場所 那珂市議会第2委員会室

出席委員 委員長 寺門 厚 副委員長 笹島 猛
委員 筒井かよ子 委員 木野 広宣
委員 萩谷 俊行

職務のため出席した者の職氏名

議長 君嶋 寿男 副議長 古川 洋一
事務局長 寺山 修一 次長 清水 貴
次長補佐 横山 明子

会議に付した事件

- (1) 「議員と語ろう会」を終えての感想、課題等について
…アンケート集計結果の説明及び意見交換
- (2) 先進地視察研修の振り返り、意見交換
…鳥羽市議会、四日市市議会での視察研修後の意見交換
- (3) 今後の議会改革の取り組みについて
…広報広聴委員会の設置について協議

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午後1時00分）

委員長 皆さん、こんにちは。

1時になりましたので始めたいと思います。

きょうは午前中の百条委員会、最終委員会のまとめ案ということで、それぞれ討議していただきましてご苦労さまでした。

引き続きまして、議会運営委員会ということで、きょうは、議員と語ろう会を終えてのいろいろな諸問題についての件、それから先進地視察研修の振り返りということと、議会改革についてということで3つ案件として挙げておりますので、よろしくご審議のほどをお願いしたいと思います。

それでは、ただいまの出席委員は、5名であります。

定足数に達しておりますのでこれより議会運営委員会を開会いたします。

職務のため、議長、副議長及び議会事務局職員が出席をしております。

ここで議長より挨拶をお願いいたします。

議長 午前中の調査特別委員会に続きましての議運、ご苦労さまです。

きょうは「議員と語ろう会」での感想、また先進地視察についての意見交換などがありますので、皆様方の活発なご意見をいただき、お願いをしたいと思います。

また、副委員長が欠員ですので、寺門委員長を中心によろしく願いをいたします。
委員長 それでは、議題に入ります前に欠員となっております副委員長を互選したいと思うんですけれども、副委員長の大和田議員が10月24日に辞職願がありまして、受理をされておりますので、辞職ということになります。

いかがいたしましょうか。

萩谷委員 委員長をやっている人は兼務はないですね。

委員長 ここではないですね。副委員長の兼務は。

萩谷委員 笹島委員しかいないんじゃないかな。3人委員長だから、委員長やってないものね。

笹島委員 やってないけど。

萩谷委員 そうしたら自動的に指名でしょう。どうでしょうね。

委員長 皆さんよろしいですか。

筒井委員 いいです。

委員長 ご推薦があるんですがいかがでしょうか。

笹島委員 わかりました。

委員長 よろしく申し上げます。

それでは、笹島委員に副委員長をお願いすることでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ声あり)

委員長 ではそのように決定をいたします。

この結果は11月20日の全員協議会で報告しましたのち、ほかに正副委員長が欠員となっている委員会の互選結果と併せまして、26日の本会議で報告いたしますのでよろしく願いいたします。

それではこれより議事に入ります。

まず最初に「議員と語ろう会」を終えての感想、課題等についてを議題といたします。

先月、「議員と語ろう会」、10月20日、21日と大変ご苦労さまでした。無事終了いたしました。委員の皆様にはいろいろとご協力いただきましてありがとうございます。またお疲れさまでございました。

初日21名の翌日14名だったかな。35名の参加をいただきまして、当初はゼロという、最悪想定をした次第ですけれども、来ていただきまして、無事開催できてよかったなというふうに思っております。

きょうは、当日アンケートを皆さんご記入いただきまして、事務局のほうでまとめていただいておりますので、内容について事務局より説明をお願いします。

次長補佐 それではアンケート集計結果をごらんいただきたいと思います。

今回来場者の方が35名、そのうちアンケートの回収がありましたのは31名ということで、回収率が88.6%ということでした。

まず問1の地区に関しましては、菅谷と瓜連の方が多かったということになります。

20日と21日それぞれの分布は下の表になっております。

それから問2の年代につきましては、60代・70代の方が多いということでした。

問3の性別については男性の方が26人、女性の方が5人ということです。

続きまして、次のページですが、職業に関しましては、そちらに書いてあるとおりで無職の方が一番多かったということでございます。

それから、「議員と語ろう会」の開催をどこでお知りになりましたかという設問に関しましては、一番多かったのが自治会の回覧チラシ、それからおしらせ版が2番目ということでございます。そのほかにも幾つかの手段をお答えいただいている方がいらっしゃいました。

続いて、問6の今回から新しく変えました座談会方式についての感想でございますが、話やすいという方が一番多く、普通の方と合わせますと7割以上の方が好印象だったのかなというところでございます。

話にくい、普通、話しやすいのところで自由に記載していただいたものに関しましては、そちらの下のところにも幾つか主なものを挙げております。

話すことになれている方となれていない方、それから1人の話す時間というものがちょっとばらついてたということがあったのかなということと、それからグループ間での話し声がダブって聞こえてしまっというのは、後ろの自由回答のところにも書いていただいた方がいるんですが、グループが近かったのかもしれないですね、話し声が自分のグループなのか、隣のグループなのか、ちょっと混ざってしまったっていう意見はございました。

続いて次のページ、問7、テーマについて。今回のテーマについてよい、ふつうと回答されている方が9割以上を占めております。

今後取り上げてほしいテーマということは別にまた後ろのところにあります。今回のテーマに関してしては、こちらでも好印象ということだったのかと思います。

それから、問9の時間については、短いと回答された方が多い結果となっております。

続いて、次のページの間8、今後意見交換したいテーマといたしまして、書いていただきました意見がこちらのようにとなっております。

次のページが、問4から9までの設問に対して、自由に記述していただく部分となっております。こちらでも後で読んでいただければと思います。

それから、次のページの間10の自由記述欄でございますが、こちらは全体を通しての意見を自由に書いていただいたものとなっております。こちらは書いていただいた通りに記載しておりますので、ちょっとニュアンスがつかみづらい部分もありますが、そのまま記載させていただいております。

集計については以上です。

委員長 事務局の説明が終わりました。

来場者の皆様からのご意見も含めまして、委員の皆様お1人ずつ感想や、今後改善すべ

き点についてご意見をお願いしたいと思います。

木野委員からお願いします。

木野委員 初めての試みということでやってみたんですけども、多分20日のほうは人数が多かったせいもあるので、いろいろな意見が出たのでまとまらなかったのかな。

逆に21日の瓜連支所のほうでやったときには、人数的には四、五人程度だったんで、結構いろんな意見が出て、短いついていう方はいなかったと思うんです。

ただ場所にもよるとは思うんですけど、中央公民館の2階のところはかなり声が反響しやすかったのかなっていう、支所の場合は結構パーテーションがあつて違ったので、その建物のつくりによっていろいろと今後考えていかなくちゃいけないのかと思いました。

内容的には20日はちょっとわからないですけど、21日に関してはいろいろな細かい意見が出て、私はよかったと思っております。

以上です。

筒井委員 私は20、21日両日出席しておりました。

それで、前の対面式でやっていた方法に比べて、意見を皆さんが言いやすい、割と近くにいるという点で言いやすく、皆さん意見を出していただけたかと思っております。

ただやっぱりここにも書いてありますが、グループが近くにありましたので、こっちで説明している話もそっちのテーブルにということで聞きづらい点もありました。

ここにも書いてあるんですが、やはり年代的に割と年齢の高い方が多くいるテーブルになりますと、「老人の話が何度も繰り返すので話が終わらない」、「次の人の話ができない」ってありますが、どうしてもご高齢の方っていうのは、同じような話を繰り返す傾向があるのかなって思われますが、若い方たちも出席されて、具体的な意見も出ましたので今回の座談会方式というのは、大変、前に比べてずっとよかったかと思えます。

1つだけ時間がやっぱり30分で次のテーマとなるので、あれをもうちょっとなんとか改善してほしいなと思っております。

以上です。

萩谷委員 お2人の委員からお話がありました。

時間はやっぱり30分ずつですから、木野委員が言ったように、瓜連の場合は少なかったということで、あるかもしれませんけども、中央公民館もやはり30分では少し短いのかなと。

時間の設定をもう少し延ばす、全体的に延ばしていく方法とか、またもう一つは3つに分かれて回るとなると、いろいろあつて、1つの方法ですけども、3つの常任委員会に固定して、1つに集まってしまう可能性もありますが、そういう方法もあつたりとか、課題はいろいろあるかなと思うんですが、ただ、以前の議会報告会に比べれば、皆さんが意見を出しやすい、気楽に話ができるのかなっていう感じが、初日もちょっと顔を出したんですけども、しましたね。

だから方法としては、ああいう座談会形式のほうがいいのかな。別な方法もまだあるのかもしれないけどね。以前よりはいいのかなと思ってますし、いろんな意見が出席者から出てますけども、テーマの問題とか、いろいろ出てますが、なかにはわからなくて来ちゃったというのも出ていますよね。その辺の周知の仕方ですか、例えば何委員会はどういうことという部分が足りなかったと思うんですけどね。そういうことはある程度出したと思うんですけどね。周知のほうでもね。それがやっぱりわかってもらえなかった人も何人かいるのかなと思いますけれども。

いずれにしても回覧板が一番見てきたという人が多いですよ。回覧版、広報よりも。4割ですもんね。いろんなことで周知するのが一番いいと思うんですが、やっぱり回覧板は思った以上に皆さん見るのかなと思いましたね。周知の方法は今までどおりでいいとは思いますがね。

何か考えながら、今後また少しでも発展できるようにと思いますね。結果的には、私は全体的には以前より良かったかなと思いますね。

副委員長 私は瓜連のほうだけしか行ってないんですけども、非常に少なくてよかったんですけど、あの中でやはり多くしゃべる人と少なくしゃべる人で、結構時間も私が采配しながらやったんですけどね。ちょっと待ってくださって、こちらの方がお話ししてないんでっていうふうにしてやっていかないと、しゃべる人はそればかりしゃべってるものから、あれはやはり采配してあげなきゃいけないというのかな。

あとその前に自己紹介か何かしたんだよね。できれば、それもいいですけど、ネームプレートでもつけて、その場でね、飯田の誰さんとかさ。

(「付けていた」と呼ぶ声あり)

副委員長 ああ、付けてた、すみません、そうですね。

そういうことで、内容的には、密な話ができやっぱり時間も足りなかったっていうのはみんな、途中で切るしかなかったものですから、もっと、今回何時間やったんですって。

委員長 1グループ30分で1時間半。

副委員長 全部で1時間半ね。もっとやっぱり2時間、3時間くらいやったほうがいいかもしれないね。せっかくやるんでしたらね。

委員長 ありがとうございます。

私は全体の進行役ということでやらせてもらいましたけれども、30分で切るのが非常に心苦しくて、盛り上がったところで、「はい、やめ」という声をかけさせてもらいました。

もう一つは、やっぱり30分では短いので、次回はやはり単独で常任委員会ベースでやって、もう2時間みっちりやったほうがいいなというふうに思いました。

あとは、皆さん初めて来て、名前も顔も知らないんだけど、初めてお会いする方で、自

己紹介をやったんですけれども、3回実は用意しました。自己紹介をやってください、それぞれのグループで。

ところが、長く自己紹介する人と短めに言う人とで、非常に時間が30分という限られた座談会の時間だったので、2日目は1回目でもう自己紹介はやめてもらって、2回目からはやらなかったということにしました。ですからこれも、もっと時間を2時間たっぷりとしていけば、もう少し入り口のところで皆さん、和気あいあいというムードができて、それをちょっと反省しています。

あとお菓子とお茶については、お菓子は皆さん休憩時間に食べられていた方もいたんですが、あんまり効果はなかったということで、その辺はあまり気にする必要もないかなということ。

あともう一つはそのテーマが、もっと身近なものでやって欲しかったなあという気が。そうすれば皆さんお話されている内容をお聞きしまして、というふうに思いました。

あと進める段になって、どうしても議員の方、我々のほうは、自分たちの仕事っていうかね、それをどんどん披露したくなるんですけど、意見を言いたくなるんですけど、そういう方も見受けられたので、やはり、市民の方100%でもいいのかなという気がしました。

ということで非常にいい座談会ができたんじゃないかなというふうに思います。皆さん協力大変ありがとうございました。皆さんの司会の話の持っていき方も非常に良かったなと思います。

その来年度開催に向けて、どうでしょうかね、今回みたいに3つテーマを持ってそれぞれぐるぐるまわってというのも非常にやはり時間がないというのと、もう少し話を始めるまでに具体的にこの話題をどれにしようかっていうのを決める時間が結構あったんだろうと思いますので、その辺も細かな、具体的な話題にしておけばもっとわかりやすいのかなと。市民の方も話しやすいのかなという気はするんですけど、その辺はいかがですか。

木野委員 確かにテーマがかなりまとまっていないというか、大ざっぱ過ぎたので、かなりそれは結構指摘はされた部分ですよ。

あと、ただその常任委員会でこのテーマなんですっていうのがやっぱり周知されてないというか、見える形で出してなかったのも、中にはうちの産業建設なんかでは、教育の話とか、やっぱり出てきますよね。ですからやっぱり目立つ、うちの常任委員会はこのテーマで今回やりますっていうふうにちょっと見える形でも出してもいいのかな。

ただ、テーマに関してはやっぱり今回出てますけど、ただ、このテーマっていうのも結構難しいのかなという。希望のテーマはありますけれども。

ですから、再度各常任委員会でもう少し練っていただいて、1年後になりますから、その状況によるとは思うんですけども、もう少し各委員会で練ったほうがいいんじゃないかなって私は思います。

委員長 いまのそのPR方法とテーマの設定ですね。各常任委員会で練るといってご意見が出ま

したけれども。やっぱり来年もその常任委員会ベースでやってはどうかなとは思いますがね。

議長 やはり今回語ろう会ということでテーマをもとに、市民の方と身近に話をできたと思うんですね、私らの議会改革の中で、市民に身近に感じてもらうというのが目標の1つなので、やはりそういう面では、近くに感じたのではないかっていうのはあります。

ですから今後できれば、逆にもっと出向くというか、会場をもっと外に出して、常任委員会でいろんな団体とか、また地域に行って話してもいいのかなと思いますね。

ですから、会場はこちらでじゃなくて、逆に議会がどんどんそちらに出向くというような形も身近に感じてもらえる1つの方法かなと思うので、そういうのも来年ちょっと検討していただければと思います。

筒井委員 今議長がおっしゃった、その出向いて行ってっていうのは、座談会の中でも話が出ました。来いって呼びつけるんじゃなくて、おまえたちが出てこいよって言われたので、例えば各まちづくり委員会で何かイベントがあるときとか、そういうときにこちらから出向いて行ってっていう方法もあるのかなって思います。本当にそれは言われましたので、考えていきたいと思っております。

委員長 確かに開催しますから出てきなさいよっていうのはちょっと高いところから物申す感じで非常によくはないなと思います。

ただ今回、来ていただいた方々でやっぱり若い人がまだ少ないっていうこと、1人、30代の人がいまいたけど、女性の方も少ないし、ということであれば、今その話に出ている、出向いていくと。若い人たちがいる団体へ行く。女性の人がいる団体へ行くというのも、来年は考える必要があるのかなと。皆さんのお話を聞いて思いました。

来年はだから出向いて行って、やりましょうということで大筋のところは、考えていきたいんですけども。

筒井委員 どんなところに。

委員長 例えばっていうと、視察で鳥羽市なんかやっている、手を挙げてもらう、団体に。募集するとかっていうのも1つありますし、あるいは知っている団体。今、まちづくり委員会という話が出ましたけれども、例えばまちづくり委員会のメンバーに声をかけるとかというのも一つあると思うんですね。募集するのもあります。

あとは例えば今までやってきたそのJAですとか、商工会の皆さんですとか、例えば婦人部ですとかいって、農業についてJAでしたら、商工会ですとどうしましうかねっていうその経営についてね、女性社長でもいいですし、もう少しだから突っ込んだところまで、深く入り込んでいったほうがいいのかも说不定。

副議長 この前ちょっと自治会の会長と話して、今筒井委員がおっしゃったような、こちらから、例えばまちづくり委員会とか、自治会長が何人が集まっていたところに我々が行くとかっていう提案をしたんです、実は。自治会のほうに。

そしたらば、自治会、特に自治会長、市民は別ですよ。自治会長たちは、議員よりも執行部と話をしたいんだっていうんですよ。なので、結局は道路を直せだの下水道をつくれだの、そういう話が多分多くなっちゃうよと。

基本的にその自治会長がおっしゃるのは、自治会がやることと、議員がやることは全く別だからって言われたんですよ。だから、先ほどこちらから出向くというお話がありましたけど、自治会もそれも1つとしてはいいですけども、やっぱりその1つの例えばPTAだとか学校だとか、そういうところも検討してもいいのかなっていうふうな気がいたしました。

委員長 そうですね。これは各常任委員会で抱えるその課題等もありますでしょうし、所管の団体もたくさんあるでしょうから、そこで見てっていうとまずは、ありますよね。

確かに副議長が言われたように、執行部の話を聞きたいというのは、自治会はそう思っていると思います。

副議長 市長のふれあい座談会ってやってますよね。ああいうことを自治会は本当はやりたい。議会というより。

委員長 執行部とね。そうですね、今は執行部から出ていくのは、呼ばれれば行くよっていう話なんでね。出前講座という形で。あくまでも話し合いじゃなくて、教えてあげるというスタンスなんで、それはちょっと先ほどの副議長の話はそうじゃないでしょう。

教えてもらうのも当然だし、いろんな話をしたい。そういう設定をするということのも大事なことだと思いますけどね。

副議長 あと出ていくのももちろんなんですけど、傍聴も検討していただいて、傍聴してもらおう、高校生とか、よく常陸太田市とかほかでもやってますけど、そうするとやっぱりそれだけでも身近に感じたっていうふうなことおっしゃっている生徒さんたちもいるみたいですし。

筒井委員 中学生議会とか高校生議会とか、生徒が質問をしたりっていうのをされているところがあるんですよ。那珂市の場合は、以前に女性議会っていうのはあったんですが、今中学生とか高校生が質問する立場になって、議会というのは、ないですよ。

(「こども議会をやった」と呼ぶ声あり)

筒井委員 こども議会はやったことありますか。何年くらい前ですか。

事務局長 年数は忘れましたが、ただそれは教育委員会でやったものです。

筒井委員 やるほうはこっちじゃないんですね。わかりました。それは、何かの機会にちょっと提案してみましよう。

議長 議会は執行部が答弁したりとか、そういう形になるんで、執行部側の主催みたいになって、うちらはお願いして、ただ、さっき副議長が言ったように、傍聴には来てもらえるのはいいと思うんですが。県立高校の生徒とか。普通授業のときなので、傍聴は、そういう形で来てもらえるといいと思います。これはこっちから呼びかければ。

委員長 そうですね、傍聴については、やっぱりお呼びして来ていただいたほうがいいと思いますので、早速これは皆さん承認いただいて、すぐにでもできることなんで、ただ現状ちょっと難しい、来年度にはなるかと思えますけど、来年度にはそれも傍聴も含めてちょっと実行していきたいなというふうに思えます。水戸農業高校と那珂高校がありますんでね。ほかは来年度についてはだから、傍聴もやってみる、それから団体との座談会ですね、これも進めていくという方向でよろしいですかね。

従来の議会報告会という、議会をお伝えするという部分は、多分その中でも、できると思えますので、まとまってやらなくてもね。各常任委員会ベースで、という方向でよろしいですかね。具体的に何をやるっていうのはまた。

萩谷委員 出て行くのもいいんですけど、出ていくとなると、いろんな団体があって、例えば3常任委員会と一緒に行くのかとか、別々に行くのかとか、常任委員会によってありますよね。

例えば、学校関係だったら教育厚生がPTAとか子ども会育成会とか、そういう人らに集まってもらって、行っていろいろな意見を聞くということはものすごくいいと思えますよね。

だけど、例えば私ども総務生活はなかなか幅が広くてどこ行っていいかわからないようなことがあるわけですよ。その辺も少しいろいろ考えていかないと、それとまた回数もふえると思うんですよ。年1回でおさまらなくなってしまうですね、出ていく場合は。

あそこだけってぽつぽつではあんまり意味がなくなっちゃうから回数もふえるんじゃないかなと思いますね。その辺も少しまだありますからね。検討しながらという事もあると思うんですよ。決して悪いことじゃないですけどもね。その辺も踏まえながら。

委員長 そうですね。萩谷委員からも出ましたように、今回は瓜連と菅谷ということでやりましたけれども、残り6地区も含めてやるのかどうか、そういったところも検討していくということで、進めていく必要がある。

副委員長 萩谷委員の言っているとおりなんですけど、今せっかく今年からやり始めた座談会方式のこれやったばかりなんで、問題は20日が21人、21日が14人と。もっと多く来ると思っていた数が少なかったでしょ、これね。

あと場所とか日にちとか時間とかいろんな面があるから、まずこういうことをやっぱり次にはもっと多くして、時間を長くしてとか、今言ってた常任委員会別にやっていいのかどうか。

なぜそんなこと言うかっていうと、いろんな質問してくるわけですよ、向こうの方たちは。テーマは確かに出してますけども、テーマ無視ですよ。

いろんな多分私と萩谷委員がいたのかな、萩谷委員が私に「笹島さんこれ詳しいからこれ答えてあげてよ」とかって、多分出たと思うんですよ。本当に向こうからしてみれば矢継ぎ早にどんな質問が出てくるわからない。

私は総務生活常任委員会の委員なんでわかりませんって、それだったらそんなこと最初からやらないでくれよと。私らは関係ないんだから、あなたたちとお話ししていろんな議会の中身を知りたいために来てるといことがメインだと思うんだよね。

だから今出た常任委員会ごとにやったほうがいいのか、混ぜて各常任委員会のほうで1チーム組んでまわっていったその専門で。向こうはそれを望んでいるから、もう次はやっぱりいろんなこと試行錯誤してやっていかないと。

あんまりあっちもこっちもやるのではなく、やっぱりこれはこれでいいとわかったんだから、どのようにもっと広げてやっていくか、もう年に1回で十分だから。やっぱり中身が濃いものをしていったほうがいいと思うんですけど、どうなんですか。

委員長 中身を濃くということで、それぞれその開催の仕方は、いろいろ検討しなくちゃならないということで、今副委員長からもお話が出ましたけれども、単独で常任委員会でやっていくのがいいのか、それとも混合チームをつくって、例えば2人ずつ、1人ずつですかね、余り多くすると座談会で来た人たちがなかなか話しづらいというのがありますんで、3人で3常任委員会でチームを組んでまわるというのも1つの手でしょうし、それだと、例えば地区も8地区全部開催すると。分けてまわって担当しながらやるというのもありますしね、そういう点もね。

もう一つはテーマだと思うんですよ。何をもってお話をするかと。それは我々が出したものと、今回もいろんな要望があるとは思いますが、それと、各委員今回の座談会の中でも出てきた課題というのが出てきてるはずなんで、その中から課題と思われるものを抽出して同じ話題でやるっていうのも1つの手でしょうし、その辺はきょうそれを議論する時間がなくなっちゃうんで、方向性としてはそういう方向で行けばいいのかなっていうのはありまして、あとは具体的にテーマと外へ出て行く場合は常任委員会単独なのか、混成チームでいくのかっていうところも踏まえて。

議長 ただ今回も3つの各常任委員会で、時間は短かったんですけど、テーマを決めてやって、皆さんいろいろな委員会の話も聞けた、できたという方もいるんで、そういうのも考えれば、来年もそういうやり方で、ただいろんな声がダブって聞こえたところもあるので、会場を1部屋ずつわけてみるとか、そういう形でやってもいいのか、3つの常任委員会がそこでいろいろな話ができたといい方もいると思うんで、その辺も検討していただいて、来年に向けていろいろ協議していただければと思います。

委員長 そうですね、もう一つそのやり方から言えば、大きなテーマがあって、サブで皆さん来た方もどういうことについて話したいかということもあると思うんで、それを10分なり15分なり、今まで勉強してきたポストイットに書いて貼って、皆さんこれでいきましょうかねっていうことで始めても、そのほうが話は入りやすいと思いますよね、1つのテーマで皆さん共通の話題でお話ができるので。そういう少なくともしていったほうがいいのかなとは思いますが。そういう進め方もできると思います。

方向性はそういうことで、具体的にはそこまでできていればあとはもう一度。時期はやっぱり10月、国体があるから秋はだめだね、じゃ5月か。田植え時期ですね。5月は厳しいですか。

事務局長 来年は4月に統一地方選があるんです。議長会とか対外的なものがすべて5月に集中します。5月はちょっと厳しいんじゃないかなと思います。

委員長 そうすると夏ですかね。7月上旬。

副委員長 エアコンがきくところで冷たい飲み物用意して。どうでしょうそれ。

委員長 7月上旬で予定しておきましょうか。

そうすると、3月にはテーマも決めて出さなくちゃいけないね。3月には決定をしておかないと。それまでに考えておいてください。

団体に外向くっていてもどこに行くのか。もう一回今回のやり方でやって、部屋を分けて、今度はそれぞれグループ単独でやっちゃって。

副委員長 来年はそんなに時間がないから、今回と同じくして。

委員長 30分ごとで移動はしなくて、それぞれ常任委員会ベースでやるということで。

副委員長 今度はコミセンに変えたほうがいいよね、五台と横堀とかね。

委員長 そうするともう早目に予約しておかなくちゃいけないんで、なおさら。

副委員長 コミセンだったら来やすいんじゃないですか。

委員長 地区のコミセンでやって常任委員会ベースで考えてということで、あとタイトル等についてはまた次回に決めたいと思います。

7月上旬でコミセンメインでということで、常任委員会ベースで座談会方式でやるということに決定をしたいと思います。

それから前回、座談会で出た、グループ内で出た意見については、各常任委員会で話し合っていたきたいと思います。全体として議論が必要だということであれば、全協でやりますし、執行部に対する提案とか、その他ありましたらまた。これはうちのほうで報告もらったほうがいいですかね。議運のほうへ報告もらって、こちらで検討をして。

副議長 広報にも報告しなきゃならないでしょ。今回やりましたっていうだけなのか、こういう意見が出ましたっていうところまで入れるのか。

副委員長 結構多いんでしょう。量はボリュームもあるんでしょう。

委員長 話の内容ね。いろんな意見が出てから、それは常任委員会で分析してもらおうとして、こういう意見が出たよと常任委員会のほうでまとめて報告もらって、この常任委員会でこのテーマについてはもう一遍深掘りしてください、これは全体でやりましょうみたいことを検討しないといけないんで。

これは12月の定例会の常任委員会で話し合ってくださいということで、まとめればこちらへもらって、うちのほうで、またこの議運で検討したいと思うんですけども、共通の課題等について。

では12月の定例会の常任委員会で再度確認をしておいていただけますか。終わったら議運のほうへ提出をお願いします。

暫時休憩します。

休憩（午後 1 時45分）

再開（午後 2 時00分）

委員長 それでは再開します。

続いて2番目、先進地視察研修の振り返りということで、鳥羽市議会と四日市市議会を訪れて、それぞれ研修をしてみました。

この視察研修について、それぞれ感想、参考になった点などありましたら、お1人ずつご意見をお願いしたいと思います。

萩谷委員からお願いします。

萩谷委員 鳥羽市と四日市市、2つの市に行ってきたわけですけども、私は那珂市議会もかなりばかにならないものだと思ってきました。

もっと自信を持って、那珂市議会なりの、別なところに視察に行くのは当然いいと思うんですが、進めていくのはいいと思うんですが、那珂市議会独自でも十分、ランキングというのはあまり気にしなくてもいいのかなと思うくらいに、思ったより自信を持って帰ってきた気がしますね、私は。

だからこれからまた視察もしながら、さらに進めていけばいいのかなという私は印象でした。細かいことは別として。

以上です。

筒井委員 私も萩谷委員のおっしゃったとおりで、ほかを見て改めて自分の議会もなかなか改革も進んでいるんじゃないかと自信を深めてまいりました。

以上です。

木野委員 確かに今お2人の方がおっしゃってましたけど、四日市市議会なんかも1年ごとに委員会が変わるといので、そういうのは大丈夫なのかなと心配するような感じで、那珂市議会のほうが結構議会改革も進んでるんじゃないかなっていうのは本当に三重県の中でやっているその鳥羽市議会とか四日市市議会がやっている、進んでいる割には意外とこっちのほうが逆に進んでいるんじゃないかなっていうのが、本音で思っていました。

以上です。

副委員長 鳥羽市のほうは結構観光都市ということで、今はちょっと伊勢市のほうにとられて人口も減少ぎみということで、財源がない割には一生懸命取り組んでいるまちだなど。おもてなしも結構細かい面で気遣いがあって、なかなかいいまちだなどと思った反面、四日市市はやっぱり交付税不交付団体で、財源的に豊かで、昔から産業都市だからね、これはこれで満足してるっていう保守的な面が見られましたね。

鳥羽市議会と四日市市議会の間をとったのが那珂市議会かなっていう感じです。

以上です。

委員長 皆さんのご意見、那珂市議会はなかなかやっていると。議会改革が進んでるなという印象を持ったという、それは、改めて思ったということでした。

私は、それぞれ行く前に質問状も事細かに書いて、質問したかったことはたくさんあったわけですが、鳥羽市議会は、四日市市議会もそうですけど、タウンミーティングというか、市民との座談会、意見交換というか、どういうふうに行っているのかなど。その辺の進め方なり、あとは市民の反響なりというのもちょっと知りたかったんですけども、それぞれやはり、座談会、タウンミーティング等も含めて、1回当たりといえますか、参加している人数が減っているというか、少ないんですね。やっぱり20人とか30人とかそういう、常任委員会単位で行っているにしても、ということは同じ悩みで我々のところもどんどん、議会報告会の参加者が減っているという状況の中で、いい解決方法というのはなかなか難しいものだというのは思って帰ってきました。

1つ、鳥羽市はPRが非常に浸透している。これはSNS等も使って、議会を一生懸命PRをしているということなんで、当那珂市議会もSNS等も含めて、もう少し頻度的にPRの回数をふやしていったほうがいいのかという気はします。

それと四日市市議会については、議会改革ナンバーワンとかになったこともある市議会なんですけれども、思った以上に上から目線というか、市民の方は本当に満足しているのかなというふうに、最初の印象は思いました。毎回1年で議長が変わるというのも、ちょっとそういうのもあるのかなという気がして、基本的に本当に市民目線になっているのかどうか、どうなんだろうというのは、素朴な印象でした。

こちらもタウンミーティング等々、いろんなことをもう110ぐらいですかね、項目に挙げると。それぐらいの改革をずっとやってきてるんですけど、なおかつ日本一を目指そうというところで言ってきましたけれども、非常に改革に対する意欲というか意識というか、どうも自分たちと議会とですね、市民とのまだ乖離があるなというふうに思ったんですけども、何でなんだろうなというのはちょっとよくわからなかったんですけども、そういうふうに思って帰ってまいりました。

副議長 あえて言えば、先ほど皆さんおっしゃってるように那珂市議会も決して負けていないなどは思いますけども、ただ前から言ってますけど、私は個人的に早くタブレット化を、それはちょっと勉強になりましたよね。どちらでしたか、公費で買ったんじゃなくて自費で、そういうのも1つのやり方なのかなあなんていうことは思いましたけどね。

以上です。

議長 2日間、鳥羽市議会、四日市市議会と視察させていただきましたけど、やはり私も感じたのは、うちの那珂市議会は改革が進んできてるなということは実感しました。

比べては申しわけないんですけど、ただやはり鳥羽市議会はタブレット導入、これについては独自に自分らでっていう、これはうちらも今後、やはり考えてはどうかと思います。

すね。自分らで資料をちょっと調べるときにも、あれば便利かなっていうこともあって、それを持つのもいいのかなとは感じました。

あとは、やはりどんだんうちらも改革していますから、四日市市議会はその後改革度ランキングで、先ほど委員長も言ったようにトップクラスだった関係で、視察する議会も多いんで、もうああいう形になってきちゃってるのかなっていう、対応の仕方も、感じたんですけど。

やはり那珂市議会、一つ一つ改革をやりながら今まだまだ進めていくことはありますから、寺門委員長中心に期待していきたいと思います。

以上です。

委員長 はい、ありがとうございました。

鳥羽市議会も四日市市議会もなかなか先進の地ではありますけれども、那珂市議会独自といいますか、那珂市議会のやり方でまたさらなる上を目指していけばいいのかなということなので、その中の一環ということでタブレット化もありますし、広報広聴委員会の機能、役割強化ですかね、こちらも当面やっていく必要があるのかなという気がしております。まずは、その辺からちょっと手をつけていけばいいのかなというふうに思ってます。

そのほかに今後取り入れる、調査研究する内容等ございましたら、あれば今後また入れて調査研究をしていきたいと思っておりますけれども、とりあえず、きょうのところは。

じゃ、次回またおっしゃっていただくということで、それからタブレットと広報広聴委員会については、近隣の議会で先進のところがあるので、これはもう実際にまたそちらも研修視察にいきたいなと私個人では思ってますので、またそれは後ほどお諮りしたいと思います。

続いて、3つ目の議題ということで、今後の議会改革の進め方ということで、今、鳥羽市議会、四日市市議会の視察研修ということで振りかえっていただいたんですけれども、やはり那珂市議会独自で進めていくということですので、広報広聴委員会の例で言いますと、5月に広報編集委員会との合同会議を開いて協議しております。

その中で出た意見としまして、広報の取材や議会報告会でも広聴はやってるんだよということ。先進地の状況を見てからでもいいのではないかなという意見がありました。

それから議運と広報広聴委員会との関係を整理しないと難しい。これは役割機能ですね、どこがどこまでを担当するのかという部分だと思います。

それからSNSを含めた新たな広聴が必要などという意見が出ておりました。

4つですね、大きな課題と言いますか、そういうことだなということでしたね。

早速ですけれども、広報広聴委員会のあり方ですけれども、それについての協議を進めたいと思うんですが、広報広聴委員会のような組織が必要なのかどうか、必要であればどのような形がいいのか。

あるいは具体的には広報広聴委員会の役割と機能、人員構成、委員会としての位置づけ

など、これは1つずつ協議して固めていく必要があるんですけども、その点についてちょっと皆さんのご意見を伺いたいんですが。

前は鳥羽市議会と四日市市議会では広報広聴委員会ということで、大和田副委員長が一生懸命聞いてくれたんですけども、そのときの質疑等を事務局のほうでまとめてありますのでお手元に配ってあります。

そこにも4番目で広報広聴委員会ということで、いろいろ質疑の状況も載せておりますが、両市とも役割機能を明確にしてやっていくということで、例えば、市民との座談会なんかは、広報広聴委員会でテーマまで、設定から全部やってるよっていうところもありましたし。

広報編集委員会のほうも、委員長が交代しちゃうんですね。それまでは副委員長が代行ということで、運営をしていただく。広報編集委員会は視察なんかは行かないですか。

近々委員長は決められるんでしょ。

筒井委員 広報編集委員会を開いたときに決めると思います。

事務局長 20日に決めてもらう予定です。

委員長 20日ね。26日の報告で一緒にやるんだもんね。

では、委員長を決めていただいて、いろいろと打ち合わせをしてからにしますかね、こちらについてはね。

副議長 今の広報編集委員会として、これが広聴広報委員会になったときに何ができるかという話はしてるんですけど、ただそれは議運の方針もあるから、勝手にこれやります、あれやりますっていう話まではまだしないでくださいというふうには言っています。

だからできれば、その話をするときには、せめて委員長だけでも、入っていただいて一緒に話をしたほうが早いかなと思います。

委員長 ということは、議運のほうである程度雛形というか、モデルをこういう役割機能を果たしてもらいたいというのを出しておいたほうがいいのか。

じゃそれを出してどこかモデル議会は、サンプルでどこか……

次長補佐 四日市市議会でも話がありましたし、5月の合同会議のときにいくつかのパターンは出しています。

委員長 それらをもう一遍洗い直してどこまでやれるか。大体内容的には共通している項目だと思いますのでね。

次長補佐 前回5月のときも、2つパターンがあって、議会だよりとかホームページとかSNS等の広報を中心にやっているところと、意見交換会の運営等も合わせてやっているところがあります。

委員長 大体四日市市議会の方式でそんなにずれはないとは思うよね。

次長補佐 四日市市議会の場合は、議会報告会とシティ・ミーティングと2本立てで行っているので、議運と広報が両方でやっている感じです。鳥羽市議会のほうは広報広聴委員会が

メインで、話を聞きたいという団体が出てきた時点で、調整は広報広聴委員会が担当して、最後までやるという形です。

委員長 わかりました。では20日に委員長が決定して、引き継ぎ事項等もあるので、それを受けて議運のほうで仮の案というか、それをつくっておいて、それと照らし合わせるということで、照らし合わせというか、もちろん議運の中で、これでいいでしょうかねという話をしてそれからこういうふうにしましょうという話をしますかね。

だから、じゃそれは私のほうで案としてまとめさせていただいてよろしいですかね。広報広聴委員会の役割機能については私のほうで議運としてまとめておくということで、20日以降、広報編集委員会の委員長決定の後、業務内容について検討するということよろしいですかね。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 いずれにしても広報広聴委員会設置については必要ありということでよろしいでしょうか。必要ないですか。ちょっと順番が後先になっちゃいますけれども、今広報広聴委員会が必要だよという意識のもとでお話はしちゃってますが、必要ないということはないですよ。必要ありということでよろしいですよ。必要ありで。広聴を入れて委員会を設置しましょうということで、よろしいでしょうかね。

筒井委員 広報編集委員会がその仕事もやるんですか。

委員長 広聴、広く聴く部分を。お知らせ分が多かったけれども。

筒井委員 それを今の広報編集委員会がやるということでしょう。

委員長 前の委員会の話だと、だから原稿だとか何とか皆さんそれぞれやってくださいねとかいろいろありましたよね。イメージとしてそれやるにあたってはと。

そこから先の話で、また、その運営していくにはもう少しスリムにならないとまずいですよねとかいう意見があって、そういう形で進めているということなんですけども。

こういう形で進めていくっていうのは、議運で私が代行でこういう役割機能があるよっていうのをまとめて、広報編集委員会のほうでどうですかね。話を聞いてもらって、これはこうしたほうがいい、ああしたほうがいいという話があって、こういう形にしましょうねというのが最終的に決まるんですけども。

次長補佐 今のメンバーで足りないということであれば、メンバー構成も考えて。

筒井委員 それが頭をよぎったんですけど。

委員長 今欠員の状態で、じゃそれをやれっていう話ではないので。

副委員長 ちょっと時間が必要なんじゃない。補欠であがってくる人もド素人の人でしょ。

ちょっとしばらく待ったほうがいいんじゃないですか。

委員長 設置する話についてはね。

副委員長 ちょっと見ながらしたほうがいいんじゃない。

委員長 方向性は広報広聴委員会設置でいいけれども、時期としてはもう少し様子を見ながら、

新人を教育しながらということですよ、要は。

副委員長 ついていけるかいけないかわからないけど、ちょっと見たほうがいいですよ、それ。

委員長 わかりました。

今度、市議選補選がありまして4人ほど新しいメンバーが来ますので、その方々も含めて広報編集委員になられる方もいますから。

広報広聴委員会設置については必要性ありということで、方向性はまちがいなくそっちに進めていくということで、具体的に役割機能については案としては固めておいても、つくっておいて、あとは広報編集委員会のほうで、どういうふうに進めていくかっていうのを出してもらって、それで、討議しながら進めていくと。

筒井委員 実際問題として、今までの広報編集委員会は、議会だよりを発行することが主な仕事としてやってきましたので、それにいろいろなことが加わってくるとなると、人員的に今までのメンバーで大丈夫なんでしょうか。

委員長 今想定をしているのはホームページ、SNS等々ですよ。

聴くという部分では、今取材でおじゃましてますよね、いろいろ記事を回り歩いて、あれが聴くという部分だと思うんですよ。

そのほかに、例えば各団体にまわっていろいろな、それが議会報告会でやって座談会方式なので、それが各団体とやるようになると、そういう仕事があるよという、お膳立てからその記事作成まで。

副委員長 大変だ。

筒井委員 もっと人をふやさないと。

副議長 どこまでやるか、何をやっていただくかっていうことを今の委員会とか議運も含めて議論しておいて、私が思ったのは次回改選時から正式に新しい広報広聴委員会が始まり、それまでに当然定数というか人数も議論しておいて、このぐらいの人数でやっていただきましようというところまで決めておいて、改選時から正式にスタートするという感じになるのかなという気がします。

委員長 スケジュール的にはそうなると思います。今お話ししている内容をそのままやってくれて話じゃなくて。

筒井委員 無理ですよ。

委員長 だから次の段階のときに、改選の時期にもう変えましようということですよ、広報広聴委員会は。それまでにちょっと議運のほうと広報編集委員会でよく議論しておきましようということですよ。

仕事の的には今までと変わらないというか、プラスの部分で議運としてお願いするところはちゃんとお願いしますよということで、もちろん手伝いもしますし、新たに3月から違う仕事がどんとふえちゃって、いや困るわって話ではない。

副議長 議論はお願いしたいです。

委員長 こういうふうにしなさいという話だけは先にしておきたいなということなんで。

すぐに変えてやってくさいということではありませんで、こういう形でいきたいと思いますということで2年間かけて次の改選時からスタートできるようにということで進めていきたいと思いますというふうに思います。

よろしいですか。余り急激な話ではないんで。人数少ないのにどうしようというのではありませんよ。

副委員長 広報編集委員会は何人抜けたの。

筒井委員 2人抜けました。

副議長 例えば補選であがった2人を補充しても、すぐに戦力にはならないでしょう。それでやれと言われても無理です。

委員長 それはわかっております。

いろいろお話は出ましたが、ほかに議会改革として取り組むべき事項がありましたらまたご意見をまとめておいていただければと。この場で聞いてもあれなので、まとめておいていただきたいと思います。

あと最後の件になるんですけども、議員勉強会につきましては年2回開催しておりますので、ことしは1回目はもう7月に茨城大学の伊藤先生を招いて、市民との意見交換の方法ということで、開催をいたしました。

2回目の勉強会について次回の議会運営委員会で議題にしますので、どのような内容で行ったらいいのか、実施案を考えていただきたいと思いますので、次回の議会運営委員会までに準備をお願いしたいと思います。

あと最後に追加事項ということで、今度補選であがってくる新議員の方への対応ということで、議員としての説明ですとか、そのほか対応事項ということで議会事務局長のほうから話がありますのでお願いします。

事務局長 今お話がありましたように今度議会議員の補選があります。それにつきましても、今冒頭で議運の副委員長を互選していただきましたけれども、これからの作業といたしまして、まず20日の全協の際に、産業建設常任委員会の副委員長を互選していただきます。

また、原子力安全対策常任委員会の委員長も互選していただきます。広報編集委員会の委員長についても同様でございますので、20日に互選していただいて、26日の本会議冒頭で議会のほうに報告というような形になります。

新しい補欠の市議会議員の方につきましては、9日が投票日でございます。ですので恐らく10日が当選の告示になると思います。

ちょっと準備がもうぎりぎりなんですけども、12日に新しい議員の説明会をやる予定でおります。13日に全協に出ていただいて、14日に本会議という形になろうかと思います。

一応14日の本会議の際には、まず新人議員の議席の指定を行わなければなりません。議会の申し合わせ内規では、在職年数による各期ごとの話し合いということになってございま

す。今のところ立候補予定者の顔ぶれを見ますと、すべての方が新人であろうということになっておりますので、1番から3番及び5番という形になります。

この議席の指定をしますと、ほかの議員の皆さんにも波及しますので、議席の変更が必要になります。ですから、おそらく議長以外すべて変わるのかなと、今のところ予定しております。

ですので、これは最終日に指定をして議席番号とかいろいろつくらなければならないものですから、最終日は、その議席に座っていただくような形になろうかと思えます。

また、常任委員会の選任につきましては、ご承知のように産業建設常任委員会が3名、それから教育厚生常任委員会が1名を指定していただきますけれども、こちらも12日に新しい議員の希望を聞いて指定するような形になろうかなと思えます。

あとそのほかに、原子力安全対策常任委員につきましては、産業建設常任委員会から1名の欠員補充になります。議会運営委員会についても、産業建設常任委員会から、これは新人とは限りませんが、補充という形になります。広報編集委員会は産業建設と教育厚生から1名ずつという形になろうかと思えます。

こちらにつきましては、13日の全協の際に決めていただくような形になりますので、皆様方もご準備、心づもりをさせていただきたいというふうに考えております。

あと、一部事務組合議会、茨城北農業共済につきましても1名欠員になりますので、こちらも産業建設のほうから出していただくような形になろうかと思えます。

以上でございます。

委員長 これ12日の新人議員説明会というのは、議会事務局のほうから議会内容と議員としてこうだよあだよという話。あと議長からも何か。

事務局長 一応議長にも出ていただこうかなという予定をしております、ちょっとお話をさせていただいて、あと議会の内容、それと今回最終日だけ出るという形になりますので、常任委員会に付託している議案につきまして、何も説明もなく採決という形になってしまいますので、それではまずいだろうということで、執行部を呼んで委員会付託になった案件については説明させるつもりでおります。その中で判断していただくという形になります。

委員長 そうですね、それやってもらわないとわからないものね。聞いても、採決だと言われても、はあというもんだらうけど。それが12日ですよ。

事務局長 一応あと少なくなっているところに、観光協会と都市計画審議会があるんです。ただ、観光協会と都市計画審議会というのは、何名以内というくくりなので、欠員ではないですね。

ですから、例えば観光協会から1名決めてくれというような要望があった場合、それから都市計画審議会のほうも、あと1人誰か指名してくれよという話があった場合には、またご相談という形になります。一応欠員ではないので、今のところ静観しています。

以上です。

委員長 そうですか。あとほかにありませんか。

筒井委員 今回補選に立候補する方は、予定では全員男性ですか。

事務局長 説明会に来られた方は10名です。そのうち女性の方1名です。

ただ説明会ですから、これは誰でも来られますので、出るかどうかというのがわかりません。書類の事前審査というのが、20日にあると思うんですが、事前審査に来る方についてはまず出られるんじゃないかな。今のところ10名は来てますけども、その全部が出るということではないです。説明会には女性の方が1名来ております。

委員長 ほかはよろしいですか。

なければ、以上で本日の議会運営委員会を終了といたします。

長時間お疲れさまでした。

閉会（午後2時31分）

平成31年2月13日

那珂市議会 議会運営委員会委員長 寺門 厚